令和元年６月２４日

第１回　学校運営協議会議事録

協議会委員

　　堅田利明、高田　茂、北村　剛、森　隆裕、麻生恭子、井谷和子

本校出席者

　　小嶋信男　校長

　　田原　聡　教頭

　　山口範晃　事務長

　　前出和彦、富田哲司、中村秀治、藤本信吾、梅﨑　亮、高沖　敦

進行　本校教頭　田原　聡

１　校長挨拶

　　学校運営に役立てて行くため、今年度も様々なご意見を頂戴したい。

　　平成３１年度のこれまでの取り組みについて報告する。

２　学校事務局および出席者自己紹介

　　運営協議会委員、学校側出席者の順にあいさつ。

３　会長選出

　　堅田利明氏を選出。

４　「平成３０年度学校経営計画」の評価と「平成３１年度学校経営計画」について

小嶋校長より

「平成３０年度学校経営計画」の評価について

　　例年、経営計画の要点については「学校教育自己診断」で生徒、保護者、教員に評価していただいている。その分析結果をもとに、◎○△の評価をくだした。また、昨年度末の運営協議会で協議委員の方々から頂戴した意見も参考にさせていただいた。以下の項目については特に補足する。

（１）学力生活実態調査の結果について

（２）受験実績について

定員厳格化などの厳しい条件のなか、生徒は健闘したと言える。

（３）読書指導について

関連分掌などでも工夫はしているが、今年度も引き続き取り組んでいきたい

（４）部活動の加入率について

高い水準で好結果をキープしている

（５）遅刻指導について

生徒や家庭の努力があらわれている

（６）その他

国際教養科の改編に向けた取り組みや広報・情報発信にも力を注いでいく。

「平成３１年度学校経営計画」について

中長期的目標を実現するために、基本的には昨年度の計画を踏襲するが、特に以下の点に重点を置きたい。

○授業と学習

（１）全教員の授業力の向上

家庭学習時間の増加を目指して、家庭学習へとつながるような授業を工夫すること。「わかる授業」から「わかりたくなる授業」へのシフト。

（２）授業見学の回数を増やしていく

教員相互が常に情報交換ができるよう開かれた授業に。

（３）家庭学習時間の向上を目指す

（１）との関連において、自宅でも勉強をしたくなるように。

○生活指導

部活の加入率は非常に高く、今後もそれを維持していきたい。

生活指導をされているという感覚ではなく、自分自身で自分を律せられるような意識を育てる。

○国際交流

大学など、多くの機関との連携を行いたい。

○広報

本校の活動をより広く知ってもらうために積極的に行っていきたい。

各担当からの報告

教務部より

＊教科書選定の現状について

府の指示に則り、教科書選定委員会を設置し、教科書の選定が客観的な理由に基

づいて行われるよう指導・管理している。

＊総合学習の現状について

教科主体から本格的な「協働的」学習に切り替えて３年目。１年生では新たに「総合的な探究の時間」がスタートし、よりグループワークや協働的に討議する内容にシフトしている。生徒たちは十分期待に応えてくれている。

＊校務処理の現状について

校務処理とは校内 LAN システムのこと。多くの学校で、コンピュータに詳しい個人が担当している。いろいろな先生が使いこなせるように工夫している。

＊入試制度改革について

今年度も若干の変更があったが、慎重かつ丁寧に対応できた。

＊授業時数確保の問題

今年度は 10 連休や G20 など例年以上に休日が多く､授業時数の確保に苦労した。

＊授業力向上の具体的な取り組み

＊プロジェクターの管理と使用頻度の問題について

特別教室に設置されたものと、持ち運び可能なものを合わせても、全クラス分には足りないため、現在は多くの先生方がプロジェクターを取り合うような状態。

進路部より

＊５４期生の進路状況について

厳しい入試だった。全国的な傾向として、私立大学の定員厳格化に加え、新入試を翌々年に控え、いっそうの安全志向が進み、一部の大学では苦戦した。この傾向は今年度も変わらないだろう。

＊進路指導の方針について

授業を大切にして、基礎学力の充実に努める。

学期毎に講習を実施して、学力の定着を図る。

スタディーサポートや模試を定期的に実施し、学力の振り返りをする。

各時期に適切な行事を設定

２年　遠足（京都で大学見学）　　１・２年　卒業生の講演会

３年　各種進学説明会　　など

生徒部より

＊遅刻について

遅刻は少ない。不注意の遅刻はほとんどなく、遅刻する生徒は体調不良や家庭の事情など理由の明確なケースがほとんどである。

＊部活動について

１年生の加入率は概ね 80％ほど。定着率も上げていきたい。

＊体育祭

今年もたいへん盛り上がり、感動的な体育祭であった。

一週間という短い準備期間であるが、限られた時間内で精いっぱい努力をするという観点で、妥当であると考えている。

授業アンケートについて

府の様式のもとに以下のようなかたちで実施。経年変化を見る限りでは、毎年すこしずつ平均値は向上している。

＊講義形式と実技形式に分けてそれぞれ実施している。実施は１学期末と２学期末。

＊経年比較をするため、質問項目は基本的に例年と同じものを使用している。

保健部より

保健室利用状況

他の学校と比べると少ない

災害補償制度の利用状況

他の学校と比べるとやや多く、ほとんどは部活中のケガによるものである。

学校側からの報告は以上です。

司会交代　田原氏から堅田氏

５　協議

（１）質疑応答

Q　学校教育自己診断の分析について、教員における指導法の伸びの原因はどのような点にあるのか。

A　ICT 機器の充実やアクティブラーニングの充実をあげることができる。生徒同士が授業の中でわからないことを互いに聞くことができる雰囲気作りなどが浸透してきた。授業改善の動きは若い先生方を中心に広がっている。

Q　読書指導の肯定率の低下について、どのような取り組みを行っているか。

A　図書館の利用率が減少しているのは事実。これについては、新しい魅力的な書籍の購入、POP 製作、国語表現の授業の中での取り組みなどで努力している。

A（意見）読書の大切さについては、主体的な学びの力をどう伸ばすのかということと関連しているように思う。自分の言葉で自分を語る。新聞を読む。読書ノート。授業と関連する本を読む、など、様々な取り組みがある。

A（意見）主体的な学びということでは、保育から小学校、中学校においてもそれぞれの段階で懸命に取り組んでおられる。保育でも、身のまわりのことを自分でや

ってみることなど生活する力の育成に重点を置いている。自分を抑えすぎるとだめで、自分で考える習慣をつけることが大切。

A（意見）大学でも人とのコミュニケーションが苦手な学生が多い。自分と向き合って苦手な処を改善するような教育が望まれる。

Q　ICT の活性化の話があったが、文化部でコンピュータ部などの科学的なクラブはないのか。

A　今のところはない。要望も特にない。ただし、個人がそれぞれのレベルで SNS などを活用している。

Q　学校教育自己診断の文言は府が作成するのか。中に「楽しい」という言葉がたくさん出てくるが、それはどうかと思う。社会も、受験も厳しいのに、授業は「楽しい」けれど、大学は通らないでは困る。

A　「楽しい」は「楽」という意味ではない。達成感があるという意味で使っている。文言は府の指導の下に本校で作成している。

Q　学校教育自己診断の教員アンケート回収率向上に向けた取り組みは。

A　提出時に名前を控えて置き、未提出者には催促を行い、100％を目指す。

（２）承認

学校経営計画の承認について

異議はなく、承認されました。

6　閉会

校長挨拶

今年度は国際科関連の改編が実施され、本校についても国際教養科が新しい学科に生まれ変わる（令和３年度より募集開始）予定。新しい学科の立ち上げについてもご意見を頂戴することになる。普通科についても、今後とも地域の期待に応えていきたい。

次回連絡

１１／１８（月）

閉会宣言（田原教頭）